

## オレンジパワー活用セミナー概要

- 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる環境・体制づくりを推進するため、認知症地域支援推進員や認知症疾患医療センター職員など、認知症の人や家族の支援者等が、ピアサポート活動等の重要性を学び、認知症の本人の視点に立った施策を推進することを目標に、令和元年度より当該セミナーを実施。
- セミナーについては年間3回セットで実施。(1回目 R7.5.27) (2回目 R7.6.24) (3回目 R7.12.23)

## セミナー開始までの経緯

- 認知症本人の声や視点を活かし、市町村における認知症施策の企画立案や評価に反映させることを目的として開催。
- 「第七次やまぐち高齢者プラン」において、認知症施策の本人の発信支援や施策企画等への参画している市町数を4市町村（R1）から11市町村（R4）へと増加させることができた。
- 認知症介護研究・研修東京センター永田久美子先生の協力、助言を得て、内容を企画。地域の関係者の繋がりの強化、推進を狙って異なる立場の2人1組での参加とした。

## 【2人1組の例】

市町認知症施策担当者 & 認知症地域支援推進員、認知症地域支援推進員 & 認知症の家族会員  
 認知症地域支援推進員 & 認知症介護指導者、認知症疾患医療センター相談員 & 認知症の本人



## 主催・対象者

- 主催：山口県健康福祉部 長寿社会課
- 対象者：行政の認知症施策推進担当者、認知症地域支援推進員、認知症疾患医療センター職員、認知症介護指導者、認知症の家族会員等

## 当日の様子など

- 講話 認知症介護研究・研修東京センター 副センター長 永田 久美子先生  
テーマ「本人の声を活かした小さな改善や取組を実践しよう」  
古い認知症観から新しい認知症観へ考え方を变えることが重要であり、  
なによりも本人の声が出発点であることをポイントに、ご講演いただきました。
- グループワーク テーマ「自分の強みを活かした活動や方法を考えてみよう」  
参加者の方々が緊張している様子は見受けられましたが、積極的な会話が展開され、  
活気のあるグループワークとなりました。
- 参加者は保健師の方が多く、その他の職種として社会福祉士、作業療法士の方も参加されており、  
セミナーを通じて自身やパートナーの専門職としての強みを再認識するほか、  
日常の所属を越えてスキルや情報を共有し、今後に向けて前向きにグループワークに取り組んでいました。



## セミナーの成果

- 受講後、セミナーで学んだ内容を職場ですぐに実践することで、得られたスキルや情報を共有できるほか、本人の視点を活かした活動を継続して実践することができた。
- セミナー受講生の活動報告を活動紹介集としてまとめ、県ホームページに掲載することで、受講者以外もピアサポート活動の重要性と本人の視点を活かした施策運営のヒントを学ぶことができた。

## 関連支援制度(補助金名など)

- 都道府県介護保険保険者努力支援交付金

## 【参考】オレンジパワー活用セミナー活動報告書

- <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/49/18525.html> (山口県HP)

## 令和6年度活動報告：周南東部地域包括支援センター

- テーマ  
「令和6年度活動報告 ー本人の好きなこと・続けたい活動から地域のつながりを考えるー」  
実例を交えて、本人の声や家族の思いの「差」についての紹介いただいた。

## 実例

## 【本人】（軽度認知障害）

「体操や卓球をするために市民センターまで歩いて行けるが、娘に心配や負担をかけるから・・・」「一人でも大丈夫」と思っている本人



この「差」を埋めることはできないか？



## 【家族】

「一人で行かせたら、周りに迷惑をかけるのでは」という心配な気持ち

- 【行ったこと】  
①本人の活動状況・②本人の好きな活動への思い・③家族の思い  
の3つについて状況把握を行うことで、本人及び家族双方が表出する思いを汲み取ることができ、それによって本人が好きな活動を続けるための解決策や、家族の不安を安心に変える解決策等を見いだせた。
- 【取組を通じた専門職としての気づき等】  
専門職として本人のやりたい「思い」に耳を傾け、家族にもその思いを伝えることで、送迎といった家族が可能な範囲での協力を得ることができ、市民センターでの活動を継続できている。本人の気持ちに寄り添い、家族へ状況を伝えることで、理解を促し、本人の持てる力、可能性を引き出すことができるのではと改めて感じた。



## 本人の実際の声を聴いてみよう ～小さな改善や取組の連鎖を作り出そう～

## ● 若年性認知症の人からのメッセージ

テーマ「若年性認知症の人の思い ～診断からこれまで～」

講師：①やまぐち希望大使 中定 ひとみ 氏  
②やまぐち希望大使 阿部 俊昭 氏

5月27日に行った第1回セミナーのアンケートで、希望大使のお二人へ聞きたいことを募集。アンケートで寄せられた内容を、山口県長寿社会課の賀原氏とともに、Q&A方式でお答えいただきました。

## ● 認知症本人や家族の発信による効果に対する支援関係者の感想

- ☞ 「私、認知症」と言えるすごさに感銘。温かい気持ちとなり、元気をもらった。
- ☞ 認知症の方へのイメージが大きく変わった。全てができなくなる、分からなくなると思い込まず、その人が出来ることを伸ばすことが、生き生きとした生き方をサポートする上で大事。
- ☞ 認知症になっても幸せな時代になってきたという言葉が印象に残った。そのように言ってもらえる市町村にすることが大事。

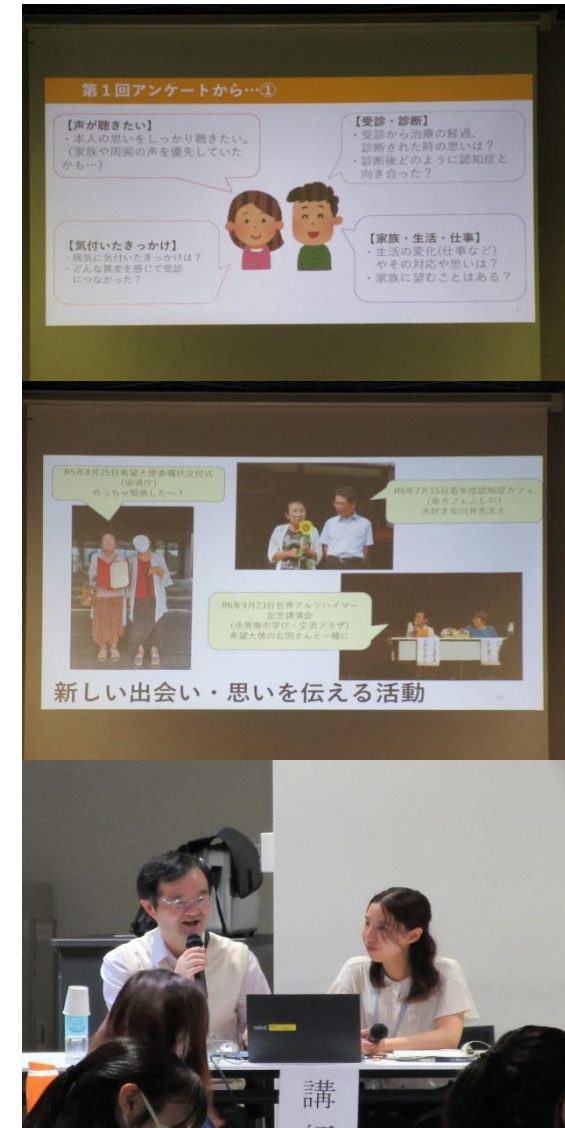
## 「やまぐち希望大使」メッセージ動画の公開

## ● 認知症とともに希望を持って暮らせる社会に ～やまぐち希望大使誕生から1年～

令和6年度版 <https://youtu.be/AX0ti2kCrlg> (通常版：16分50秒)

令和6年度版 <https://youtu.be/NPTtyRBLkCE> (ショート版：5分30秒)

<https://www.pref.Yamaguchi.lg.jp/soshiki/49/246192.html> (山口県HP)



## グループワーク

- テーマ  
「やってみようと思ったことを話してみよう！」
- グループワークは、個人で「①今後の活動で大切にしたいと思ったこと」「②これからやってみようと思ったこと」について考えた後、パートナーとその内容を共有し、さらに他グループと共有する、という3つのステップで行われ、普段業務に携わる上で抱える悩みや課題について、グループで話し合ったり、情報交換を行いました。
- 日頃、話すことが少ない「今後こういう施策をやってみよう、こういう施策を考えている」などについて、活気のあるグループワークが行われていました。

グループワーク

テーマ：「やってみようと思ったことを話してみよう！」

ステップ1 (5分)	まずは、 <b>個人で</b> ①本セミナーから今後の活動で大切にしたいと思ったこと ②これからやってみようと思ったこと について、自分の思いやアイデアを整理しましょう。
ステップ2 (15分)	<b>パートナー</b> と思いやアイデア（ステップ1）を共有しましょう
ステップ3 (20分)	<b>他のグループ</b> と思いやアイデア（ステップ2）を共有しよう ※「②これからやってみようと思ったこと」を深めましょう

➡ みんなで学びを共有しよう！



テーマ「実践からの気づきを共有しよう」

01 活動紹介

01



【活動紹介シート】を活用して、学んだこと、感じたことを共有。

02 グループワーク

02



グループで思いやアイデアを共有。

03 ペアワーク

03



グループで話したことをペアで共有。

04 セミナー振り返り

04



全3回を通じたセミナーの振り返り

ペアはあえて分けて、全体での話がわかり、質問や共有をしやすくした。

各グループで出た意見や今後の活動のヒントについてペアで共有。

## 01 活動紹介



- セミナー参加者が、これまで実践してきた活動について活動紹介を行い、実践から得られた気づき等の情報共有を行いました。
- 活動紹介では、
  - I. 一人ひとりの声をひろい一緒に実現
  - II. 認知症月間・啓発活動
  - III. 仲間の輪を広げる
 の3カテゴリーごとに計7つの活動紹介を行い、本人の声・視点に着目した活動や多世代を対象とした普及啓発活動、支援者間のつながりを意識した活動など、幅広い紹介がなされました。



## オレンジパワー活用セミナー ～認知症の本人や活動を活かすための講座～

### 第3回

実践からの気づきを共有しよう



1



## 02 グループワーク



- 「活動紹介を聞いて思ったことを話してみよう！」をテーマに、他のグループによる活動紹介を聞いたうえで、各グループが取り組む際に工夫している点や、活動を進める中で意識しているポイントについて詳しく聞き取りました。
- その内容を踏まえ、参加者一人ひとりが「自分たちの地域ではどのように活かせるだろうか」「どんな活動をやってみたいか」といった考えを出し合い、グループ内で共有する時間としました。



## グループワーク



テーマ：「活動紹介を聞いて思ったことを話してみよう！」

ステップ1  
(40分)

グループ内で思いやアイデアを共有しましょう  
①他のグループの活動紹介に対して、もっと聞いてみたいこと  
②これからやってみたいこと、自分の思いやアイデア

ステップ2  
(15分)

グループで話したことをペアで共有しよう  
①各グループで出た意見やアイデアをペアで共有しよう  
②これから地域で取り組みそうなことを一緒に考えてみよう

みんなで学びを共有しよう！

39



## 03 ペアワーク



- 各グループで出された意見やアイデアについては、その場で終わりにするのではなく、ペアで共有しました。
- 相手の視点や発想を聞くことで、自分では気付かなかった点に気付く参加者も多く、活発な意見交換の時間となりました。
- 各活動の背景にある思いや、成功につながったポイントを共有することで、新たな視点や今後の活動のヒントが得られ、個々人のアイデアを深める貴重な機会となりました。



## 04 セミナー振り返り



- 第1回セミナーでの認知症介護研究・研修東京センター 副センター長 永田 久美子先生の講話内容も踏まえつつ、本人の声に寄り添う姿勢を大切にしながら地域に出向き、本人だけでなく家族や地域住民を巻き込みながら、本人の希望が少しでも実現するような支援を積み重ねていくことや、新しい認知症観を地域へ広めていくことなどの重要性を共有し、3回分のセミナーを通じた振り返りを行いました。

## これまでのセミナーでの学び・気づき

## 💡 第1回セミナーアンケートより（一部抜粋）

- ・グッドストーリーを職員が意識し、共有し、新しい認知症観の啓発をしていきたい。
- ・本人の声を聞きにもっと地域に出たい。
- ・事業ありきではなく、本人の声を聞くことの大切さ、地域の認知症観について共有することができた。

## 💡 第2回セミナーアンケートより（一部抜粋）

- ・大きなことをしようとせず、個別のケースから地域での支援（チームオレンジなど）につなげられるといい。
- ・家族、地域を巻き込んで本人の希望が少しでもかなえられるよう活動していきたい。
- ・まずは一事例一事例を丁寧に関わり、当事者の声を聞きたい。



令和7年度オレンジパワー活用セミナー  
～認知症の本人の視点や活動を活かすための講座～  
開催要領

1. 目的  
認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる環境・体制づくりを推進するため、認知症地域支援推進員や認知症疾患医療センター職員など認知症の人や家族の支援者等が、ピアサポート活動等の重要性を学び、認知症の本人の視点に立った施策を推進することを目指す。
2. 主催 山口県
3. 内容、日時及び場所 チラシのとおり
4. 対象者 行政の認知症施策推進担当者、認知症地域支援推進員、認知症疾患医療センター職員、認知症介護指導者、認知症の家族会員等
5. 定員 24名  
※定員に達した時点で締切りますので、御了承ください。
6. 受講料 無料
7. 参加申込みについて  
  - ・ 共に活動できるパートナーと2人1組で、令和7年5月13日(火)までに、下記の県ホームページの専用申込フォームURL又はQRコードからお申し込みください。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/ques/questionnaire.php?openid=188>  
※セミナーは全3回の日程で行いますので、初回申込みで全日程を受け付けます。

  - ・ 申込みをされた方は、全日程（3回コース）の受講をお願いします。やむを得ない事情で欠席される場合は、ペアのうち1人は必ず参加をしてください。第3回の日程は現時点で決定していませんが、12月22日の週を予定しています。
  - ・ 受講決定について、お申込みいただいたメールアドレス宛に5月19日の週にメールでお知らせします。また、定員超過等により受講をお断りする場合には電話等でお知らせします。

8. 問い合わせ先  
山口県健康福祉部 長寿社会課地域包括ケア推進班（担当：賀原・鯨田）  
TEL 083-933-2788 FAX 083-933-2809  
メールアドレス：[kahara.haruna@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:kahara.haruna@pref.yamaguchi.lg.jp)



## 令和7年度オレンジパワー活用セミナー

### ～認知症の本人の視点や活動を活かすための講座～

認知症の人とともに施策の検討や日々の活動ができれば、わが市町がますます魅力的な地域になると思いませんか？

認知症があっても、自分らしく暮らすことのできる地域を目指し、パートナーと一緒に、学び、考えてみましょう。

#### 【開催日時・内容・場所】

	日時	内容	場所
第1回	R7.5.27(火) 13:00 ～16:00	○認知症の本人の視点に立った施策について学ぼう 講演「本人の声を活かした小さな改善や取組を実践しよう」 講師：認知症介護研究・研修東京センター 永田 久美子 副センター長	山口県健康づくりセンター 健康指導室 (山口市吉敷下東 3-1-1)
第2回	R7.6.24(火) 13:30 ～16:00	○令和6年度の活動紹介：周南東部地域包括支援センター ○本人の実際の声を聞いてみよう ～小さな改善や取組の連鎖を作り出そう～ 内容：若年性認知症の人からのメッセージ	山口県健康づくりセンター 健康指導室 (山口市吉敷下東 3-1-1)
第3回	R7.12月下旬 13:30 ～16:00	○実践からの気づきを共有しよう 実践した活動についての紹介等	6月上旬に日程をご案内します。

【参加申込・定員】 定員：24名（※定員に達した時点で締切ります）  
共に活動できるパートナーと2人1組で、5月13日(火)までに、下記の県ホームページの専用申込フォームURL又はQRコードからお申し込みください。  
【URL】 <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/ques/questionnaire.php?openid=188>

#### 【2人1組の例】

市町認知症施策担当者 & 認知症地域支援推進員  
認知症地域支援推進員 & 認知症の家族会員  
認知症地域支援推進員 & 認知症介護指導者  
認知症疾患医療センター相談員 & 認知症の本人



#### 【注意事項】

- ※ 申込みをされた方は全日程（3回コース）の受講をお願いします。やむを得ない事情で欠席される場合は、ペアのうち1人は必ず参加をしてください。
- ※ 各回で開始時間が異なりますので、ご注意ください。

#### 【申込み及び問い合わせ先】

山口県健康福祉部長寿社会課 地域包括ケア推進班（担当：賀原・鯨田）  
TEL 083-933-2788 FAX 083-933-2809

